# <2016年11月 月例会報告>

# 「ゆたかなくらし」作りに独自の方法で挑む スポーツドクター安藤がモンゴルで考えたこと

安藤裕一 ((株)GMSS ヒューマンラボ/サロン 2002 理事)

【日 時】2016年11月17日(木)19:00~21:00

【会 場】筑波大学附属高校 3F 会議室(東京都文京区大塚 1-9-1)

【テーマ】「ゆたかなくらし」作りに独自の方法で挑むスポーツドクター安藤がモンゴルで考えたこと

【演 者】安藤裕一((株) GMSS ヒューマンラボ代表取締役/サロン 2002 理事)

【参加者(会員・メンバー)11 名】安藤裕一(GMSS ヒューマンラボ)、奥崎覚(Qoly)、川戸湧也(筑波大学大学院)、岸卓巨(日本スポーツ振興センター)、小池靖(サッカースポーツ少年団・さいたま市)、小山基彰(ヒーローインタビュー)、笹原勉(日揮(株))、嶋崎雅規(国際武道大学)、竹中茂雄(東海道品川宿 FC)、中塚義実(筑波大学附属高校)、守屋佐栄(サッカー観戦・旅・スキーが趣味)

【参加者(未会員)7名】小西由里子(国際武道大学)、大槻清馨、香西武彦(Honda)、福士唯男((株)アスリートプランニング)、長尾樹((株)T.C.PLACE)、本田康弘(Dreamers Japan(株))、国島栄市(ビバ!サッカー研究会)

#### <目 次>

- 1. 自己紹介
- 2. モンゴル訪問
- 3. 高齢化の進む日本で GMSS ヒューマンラボの目指すもの
- 4. ディスカッション
- 5. モンゴルのスナップ (本報告では省略)
- 6. コメント及びまとめ

#### 1. 自己紹介

中塚 本日はサロン 2002 の理事であり昨年 GMSS ヒューマンラボを立ち上げた安藤さんによる月例会で、「「ゆたかなくらし」作りに独自の方法で挑むスポーツドクター安藤がモンゴルで考えたこと」と言うタイトルで話をしてもらいます。よろしくお願いします。

安藤 演者をさせていただきます NPO 法人サロン 2002 理事の安藤です。中塚理事長とは、筑波大学時代の同級生となります。本日はこれから、自己紹介、モンゴルでの体験、日本の高齢化とスポーツ、そして自身が構想する国内外のプロジェクトといった流れでお話させていただきます。

東京で生まれ、筑波大で医学を勉強し外科医となりました。国境なき医師団の活動として2004年にコートジボアール、2006年大阪のホームレス支援という経験があります。インターナショナルSOSという渡航者や駐在員が病気などトラブルにあった際のサポートをする会社に12年勤務していましたが、昨年独立して、(株)GMSSヒューマンラボを起業しました。現在インターナショナルSOSのパートタイムならびに国際武道大学で非常勤講師も行っています。

スポーツはハンドボールのほか、サッカー、スキー、ボート、ラグビーなどいろいろな種目に接する機会がありました。こちらの写真(図1)は今年の全日本マスターズハンドボール大会の写真です。私の所属したチームのスターティングメンバーの平均年齢は70歳超でした。この写真をモンゴル人に説明したらとても驚いて、モンゴル人にとっては、50歳以上の人が元気に運動することは想像できないようで、日本は高齢化が進んでいるが、元気な高齢者がいることは誇りに思って良いことだと実感しました。



図1 演者が所属するマスターズハンドボールチーム: 高齢になっても元気であることはゆたかな暮らしの大切な一要素

## 2. モンゴル訪問

今回なぜモンゴルに行ったか説明します。インターナショナル SOS に勤務したことがきっかけとなり、3年ほど前より日本危機管理学会の会員となりました。同学会会長である国士舘大学政治学の池田教授のところで留学経験のあるモンゴル人が、モンゴル国立大学の政治学の教授などのスタッフとなったことから、合同研究会を開こうということで、今回第一回日本モンゴル危機管理交流会がウランバートルで開催されました。期間は9月5-10日でしたが、気温は10度前後でセーターとコートが必要でした。

モンゴルは面積が日本の4倍、人口は約300万人、国民一人当たりのGDPが日本の約1/9です。モンゴルは高原というイメージがあるかもしれませんがGoogle mapで見ると緑の地域は少なく、砂漠化が問題となっています。歴史的には13世紀に活躍したチンギスハーンが有名です。1924年から1992年までの約70年間は社会主義体制で、親ソだったのですが、現在もロシアとの関係は良好で、多くの研究者はロシアへの留学経験があります。米国や日本などの国への留学が増えてきたのは最近の傾向です。1992年に民主化が起きました。国会は一院制で72議席、与党が60議席あまりを占めているということです。



図2 モンゴル国立大学前にて日本人訪問団一行

図3 ドルゴルスレン国会議員は朝青龍関のお兄さん といったほうが日本人には馴染みが深い



到着した翌日はモンゴル国立大学を見学した後、国会を訪問、ドルゴルスレン議員が迎えてくれました。同議員は朝青龍のお兄さんといったほうが日本人には馴染みがありますが、彼自身も格闘家として日本での生活経験があります。モンゴルに出資している金額は日本が一番なのですが、モンゴルの発展のためにもっと出資してほしい、また日本の銀行のモンゴル支店を作ってほしいというのがドルゴルスレン議員からのメッセージでした。3日目には、日本モンゴル危機管理交流会が開かれ、日本からの6名とモンゴル国立大学の政治学の教員数名が登壇、それぞれ自国語でのスピーチを、日本の留学経験のあるボンダリ女史が日本語~モンゴル語の通訳をしました。ここに、政治学の大学生ならびに大学院生合計約50名が参加し熱心に聴講していました。



図4 日本モンゴル危機管理交流会 最前列より日本人訪問団、2列目モンゴル国立大学政 治学教室教官、3列目以降は同大学学生



図5 テレルジ国立公園 ウランバートルより北東に約70kmの地点は観光スポット。草原と背景の山並みが美しい。観光客が宿泊する観光用のゲルの集落が見える。

4日目、モンゴル国立大学の教官らと共にウランバートルから70km ほど離れたテレルジ国立公園という観光地にバスで向かいました。ウランバートルの中心部から10分も郊外に向けて走ると、ゲルが点在します。観光客向けの巨大チンギスハーン騎馬像に入場、中は展示場になっています。草原では遊牧民の飼うヤクの群れに遭遇しました。現代の遊牧民は携帯電話を持っているしソーラーパネルと衛星放送を使ってテレビも観られるようですが、放牧自体は昔ながらのやり方のようで自然任せで育った草を求めて転々としています。もし栄養価の高い牧草を育て、チーズやヨーグルトなど付加価値の高い乳製品をつくれば、彼らの経済もかなり潤うのではと思いました。皆さんならこのモンゴルの草原を見て何をしたいと思いますか? 私が思ったのはこれだけ広大な草原があっ

たら、「フットサルコートやサッカーグランドが作れる!」と思いました。放牧の効率を高め、付加価値の高い乳

製品を生産し、海外から人を呼べる「アジアユースフットサル大会」の開催、これらを融合するのも悪くないと思いました。これが「モンゴルプロジェクト」(図 7)です。今後モンゴル国立大学の教官や農業関係者から話を聞くことにより、実現できそうか煮詰めていきたいと思います。



図6 酒井氏(左)をエスコートするモンゴル国立大学の教授(右)。モンゴル人は子供の時に馬に遊びで乗っているので手綱捌きはお手の物

# GMSS

# モンゴルプロジェクト 広大なスペース

- ・遊牧の方法は原始的
- •自然に生えた草を求めて移住する
- 牛、馬、羊は飽和状態
- ・乳は取れるが量は少ない

サッカー/フットサルの フィールドが作れる!



図7 モンゴルの広大な草原は、サッカーやフットサルを行うのに適しているかもしれない。

### 3. 高齢化の進む日本でGMSS ヒューマンラボの目指すもの

さてここからは、スポーツを通してくらしをゆたかにすることをヴィジョンとする GMSS ヒューマンラボに関する話です。スポーツには、することあるいは見ることなどを通して多くの良い面があります。しかし一方種々の理由でスポーツに対し悪いイメージを持つ人がいるのも事実です。

まず「スポーツの価値」について考えてみましょう。スポーツの本質の一つに「自分が楽しむ」ことが有ります。 「楽しむ」ための要素には、うまくなろうとする努力もあるし、仲間を信頼する、レフェリーや対戦相手、応援してくれる人をレスペクトする、明日以降も楽しむための努力をする、などといったことがあります。つまり「自分さえ良ければ」という考えでは達成できず、仲間と共有できることが「スポーツの価値」につながります。

#### スポーツの価値

- 自分が楽しむために努力する
- うまくなろうと練習する
- 勝つために一所懸命プレーする
- ・ 仲間を信頼する
- レフェリーや相手をレスペクトする
- ・ 応援してくれる人をレスペクトする
- 自分だけの自己満足では達成できない、
- 自分たちがみんなで楽しむことを目指す
- 今だけではなく、明日以降も楽しむ、
- そのために努力する

#### 希望

Hope is a wish for something to come true by action.\*

(\*出展 玄田有史 希望の作り方 岩波新書)

図8 「スポーツの価値」と「希望」は似通っている

# WHAT IS 'HEALTHY AGEING' 健やかに年を重ねる

- "Healthy ageing" is defined by the World report on ageing and health as the process of developing and maintaining the functional ability that enables well-being in older age.
- Well-being: Welfare, Health, Happiness, Comfort

福祉、健康、幸せ、心地よい

・単に病気でないことではなく、精神的に満たされる

生かされるのではなく、生きたいと思いながら生き、 生きていて良かったと思える最後を迎える

図9 身体だけでなく、心も健やかであることがゆたかなくらしにつながる

視点を変えて「夢と希望」について考えてみてください。この二つは何が違いますか? もちろん自由な解釈があって良いのですが、一つの解釈は実現可能でなくても夢、もし実現が可能であれば希望、ただしそのために行動を起こす必要がある、という考え方があります。"Hope is a wish for something to come true by action."というのは東京

大学社会学の玄田先生の著書からの引用ですが、「スポーツの価値」と比較すると、「理想とする目標に近づくために努力をしていく」点など共通点を感じます(図8)。高齢者がますます増える日本社会ですが「希望をもちながら生き、生きていて良かったと思える最後を迎えたい」というのが多くの人が持つ人生観ではないでしょうか(図9)。

ここから戦後の日本のスポーツについて振り返ってみます。1946年の日本国憲法には、国民が健康で文化的な生活を送る権利が示され、1961年にスポーツ振興法が公布されましたが、これが改正される形で2011年にスポーツ基本法が公布されました。この法律は、国民の心身の健全な発達、明るく豊かな国民生活の形成、活力ある社会の実現および国際社会の調和ある発展に寄与することを目的としており、まさにスポーツを通して国民のくらしをゆたかにする我々サロン2002の目指すものと一致しています。ただ理想通りに進まないのが現実です。総合型地域スポーツクラブはスポーツ基本法など国の政策に基づき推進され、その数は2015年末には全国で3500となりました(図10)。ただし、実態調査では、会員の確保、財源の確保、指導者の確保など多くの課題があることが浮き彫りになっています。例えば、スポーツ指導者の一回あたりの手当の平均は2500円弱ですが、これでは指導者は生活を維持することが困難なことは自明です。クラブの運営をするマネージャー、こと務職スタッフの不足も切実です。スポーツの経験を生かしたい若者も、地元に帰っても仕ことがないということで、人口の空洞化を助長しています。

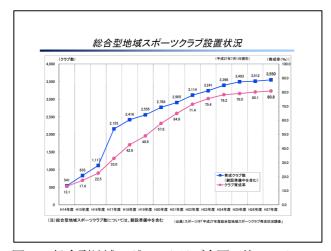


図10 総合型地域スポーツクラブ全国で約3500に

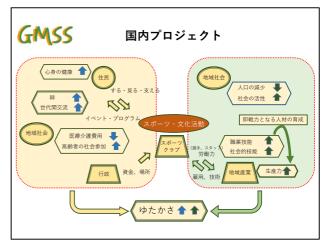


図11 スポーツクラブは、産業と結びつくことで、地域のゆたかさにつなぐことが可能となる

スライド (図 11) に示すように、地域の産業 (例えば農業は良い候補だと考えているのですが) とスポーツクラブあるいは自治体をもうまく融合することにより、地域の人々の健康と活性化を促し、ゆたかなくらしがより現実的なものになると考えています。若者に働きながらスポーツをする、あるいは指導するという環境を整えることで、職場技能も習得する機会を提供できれば、スポーツ現場から引退後の職業として生かすことも可能となります。これが GMSS ヒューマンラボで手がける国内プロジェクトです。

次に示す東南アジアプロジェクト(図 12)は、日本企業が東南アジアに工場を設置する際に、現地のスタッフ及びその子供らにスポーツをする環境と勉強する環境を一緒に提供するというものです。そこでスポーツを指導する日本人は、単にスポーツの技術を教えるのではなく、スポーツを通して、仲間を大切にすることなど「スポーツの価値」あるいは「スポーツマンシップ」を現地の人に伝えます。これにより、企業に対する親しみあるいは loyaltyが高まり、その結果、製品の品質向上や、離職率の低下が期待できます(図 13)。さらに日本からの医療も提供することができればさらに面白いのではないかと考えています。GMSS としてはこういったアイデアに関心がある日本企業を今探しています。

以上、国内プロジェクト、東南アジアプロジェクト、そして先ほど伝えたモンゴルのプロジェクトが、現在 GMSS ヒューマンラボで構想しているプロジャクトの紹介となります。

ここまでの話の中で、皆様の中からご意見や質問がありましたらお願いしたいと思います。



図12 東南アジアプロジェクトは、工場をつくり仕事 を提供するだけでなく、スポーツや教育も現地の人々 に提供する (東南アジア以外での展開も可能)

# GMSS

## 東南アジアプロジェクト

日本の企業は工場を建設し雇用を創出 スポーツクラブを通して、住民の健康向上 チームワークやスポーツマンシップの意識 子供に基本的な教育を提供 企業に対する親しみ(loyalty)の向上 盗難の減少、品質の向上、離職率の減少

図 13 東南アジアプロジェクトによって期待できる効果は、現地の人にとっても企業にとっても有益なものとなるはず

#### 4. ディスカッション

中塚 GMSS プロジェクトを話してもらいましたが、これらのアイデアの中で実際に動いているものはありますか?

安藤 国内のプロジェクトについて、現在は全国のクラブを取材訪問してリサーチを行っています。そこでうまく 機能しているクラブがあれば、それぞれの手法を、全国に広めるあるいは、スポーツ庁などの中央機関へ伝え ることで情報の共有化を計画しています。海外のプロジェクトについては、興味を示しそうな企業とスポーツ クラブなどをリサーチした上で、マッチングをさせることを計画しています。

中塚 国内では先行事例のリサーチを行い、海外のプロジェクトとして外に出たい企業とそれを誘致したいところ をマッチングさせることを GMSS の事業としていくということですね

#### 安藤 はい

本田 スポーツと社会をつなぐ提案型のビジネスが、ようやくJリーグの方で出てきていると思いますが、スポーツ・スポーツマンシップを社会の需要とマッチングさせることを提案することができる営業マンがいないことを実感します。これを上手に提案することができれば、スポーツとビジネスがより繋がりやすくなると思います。

小さな成功体験の積み重ねが自信を生むというのがスポーツの価値の一つだと思いますが、仕事でもスポーツでも成功体験を重ねて自信を育てることは人生においてとても意義のあること、私自身いくつかのこと例を経験してきているので機会があったらサロン2002で報告させていただきたいと思います。

安藤 ありがとうございます。アフリカで現地人と仕事の経験ある香西さん、ご意見ありましたらお願いします。

香西 ナイジェリアに駐在していました。ナイジェリア人は、サッカー好きな国民であり、弊社のアソシエイツは 昼休みにボール一つで手軽にできるサッカーをよくやっています。「スポーツの価値」ですが、ナイジェリア のアソシエイツの中には自分が担当する仕事に集中するあまり、全体の業務バランスが悪くなったり、上手く 成果が出なかったりする場面がしばしば遭遇することがあります。その際に私は彼の指導的立場にあるナイジェリアアソシエイツに対し、サッカーに例に「こういった状況が起きた際に、フォローが必要な人にフォローするのは、サッカーでも仕事の場面でも同じことだ」と言うと理解してもらいやすい。私はこの様に人材教育の面で"スポーツ"を活用していた経験があります。ただし、識字率が小学校4年生くらいといわれる彼らには、この様なことを毎日繰り返して言わないといけないということがあります(笑)。

ところで東南アジアのプロジェクトは、地元にも貢献することができる「CSR」にもなるため日本の企業の中で興味深いと感じるところが多いと思います。

安藤 香西さんと同じくアフリカで経験のある岸さんどうでしょうか

岸 アフリカビジネスラボと言ってアフリカで仕事をしている人から話を聞く機会があります。ケニアでは水産業、大豆生産などが展開されています。その人たちにどうやって良い現地の人材を探すか聞いたところ、電話の応対や対話の内容から良い人材を選出できるといわれました。またサッカーなどのスポーツイベントを実施すると、リーダーシップがある人材を見つけることができます。実際にカンボジアでのホテル業を展開する際に、サッカー大会を開催して人材発掘に応用した話を聞いたことがあります。

一方、安藤さんが提示した国内のプロジェクトについてですが、野外教育(活動)を行っている人は地域の 産業とつながっていると思います。牧場やスキー場で働きながら、野外活動を子供に教えるということをして いるところがあります。

- 香西 総合型地域スポーツクラブは現在 約3,500 箇所ということでしたが、ここ数年はあまり増えていない。ところで、この数(3,500 箇所)は日本全土を考えると適正と考えられる数なのでしょうか?
- 鳴崎 各自治体は最低1つ以上の総合型地域スポーツクラブを作れという政府からの指令があり、これに従って作られたものも多い。古くから住民が主導で活動している良いクラブもある(例えば杉並区の向陽文化スポーツクラブクラブ)が、自治体が音頭を取って作られたクラブの中には、形だけの総合型スポーツクラブも多いので、全体でみれば総合型地域スポーツクラブが当初の構想通りに機能しているとは言えない
- 香西 総合型地域スポーツクラブ数が、急に上がったカーブの年度があるが、その後はサチュレーションの傾向。 これは、作られるクラブと廃止されるクラブが拮抗しているということでしょうか。それとも、そもそも総合型地域スポーツクラブが作られていないのか?
- 鳴崎 2000 年にできたスポーツ基本計画に基づき、各自治体で最低一つの総合型スポーツクラブを作れという号令が出たため、各自治体がこれに反応したのが、初期に総合型地域スポーツクラブが増加した理由です。最近はカーブがフラットですが、新設が減ったためで、廃止になるクラブは意外と少ないです。

総合型スポーツクラブがうまくいかない理由の一つは、学校の部活動との両立がむずかしい。そこをうまく やっているのは愛知県半田市で、週末は学校の部活動は無しにして、成岩スポーツクラブに参加するようにし ていることで機能している。toto などの助成、補助金をもらえるところは、それを運営に使ってしまうので、 助成期間が切れてなくなると経営が成り立たなくなってしまう。助成に頼るところよりも、むしろ会費収入な ど自分たちで収入を確保して運用できているところがうまくいっている

中塚 この政策が出てきたのは平成7 (1995) 年だったと思うが、当初、全国に10,000 ヶ所の総合型地域スポーツ クラブを言われていました。その根拠は中学校区域に一つ、つまり自転車で通える範囲に一つあるということ です。ただしグラフを見てわかる通りまだ追いついていないのが現状です。

- 安藤 中学校区に一つクラブをという考えは良いと思うが、必ずしも総合型クラブでなくても良いと思っています。 ただし住民にとって親しみやすい、アクセスしやすく、楽しんで継続することができるようにすることは必要 と考えます。
- 鳴崎 奈良にはサッカーに限定して活動していることで成功し、紹介されている例もあります。(特定非営利活動 法人ソレステージャ奈良 2002)
- 安藤 総合型地域スポーツクラブにはマネジメントができる人材が少ないことも課題となっていると思います。つまり現場で指導はできても、資金繰りを含め組織として機能するためのノウハウを持ち合わせた人材が少ないこと、そして、仮に人材がいても、フルタイムで働いてもらって家族を養うほどの給与を払えない、このため他に仕事をしながらクラブのマネジメントもやらなければ生活が成り立たないという状況は好ましくないと思います。
- 鳴崎 日本の大学には、スポーツに関係する学科をもつ大学が増えている、しかし、クラブ運営などのスポーツマネジメントを教える実践的なカリキュラムが整っている大学はほとんどない。私の研究室の大学院生は「大学におけるスポーツマネジメントの教育の現状と課題」ということを研究テーマにしています。大学のスポーツ関連の学科は運動部の推薦の受け皿になっているのが現状で、社会の需要に大学の指導内容が追いつくはまだ時間がかかりそうです。
- 小西 成功例を見た場合に、マネジメント以外に必要な要素は何がありますか?
- 安藤 三重県いなべ市のように、自治体の理解も重要な鍵となると思います。同市の市長はアメリカンフットボールの経験者と聞いていますが、自治体が住民の健康づくりに理解があるということは重要な要素となります。同市にはまだ取材に行っていませんがぜひ取材したいと思っています。他に必要な要素はスポンサーとなれる企業だと思います。つまり、クラブのマネジメントと、自治体と、地元企業の三つが成功のための大切な要素と考えています。
- 嶋崎 収入は大きな要素で、受益者負担も必要と考えます。それによって、指導者らスタッフが適正な収入を得る 必要があります。スポンサーも収入を支える重要な要素となります。ドイツのあるクラブではビール会社と契 約を結び、クラブハウスではそのビール会社のビールが独占的に販売、販売利益の一部はクラブの収益に成る という仕組みを作っているところもあるようです。
- 安藤 スポーツクラブのスタッフは、胸を張って給料をもらってよい、ただし、そのためにはプロフェッショナル として責任を持って指導に当たることができないといけない、日本のスポーツ指導の現場もこのように変わっていかないといけないと思います。私も学生を指導する立場にありますが、「さすが国際武道大学を卒業しただけのことはある」と人々に思わせるような指導者になってほしいという思いを持って接するようにしています。
- 小池 アメリカのスポーツ産業は 60 兆円で、自動車産業より大きいそうです。スポーツ庁と話し合いの場で、日本のスポーツ産業は 5.5 兆円、2025 年頃には 15.5 兆円に増やそうという話がありました。「10 兆円分の価値をどうやって社会にアピールしていきますか?」と尋ねたところ「「それはスポーツの価値とは何だろうか」という本質な話ですね? 御社はどういった価値があると考えてオリンピックのスポンサーになっています

か?」と逆に尋ねられました。社内でそこまで議論したことがなかったため答えに窮した経験があります。

アメリカはスポーツ産業に携わる人口が増えたわけではないが、スタジアム・アリーナをうまく活用し、あるいは地域の活性化に役立つということを理解している自治体が費用を出すことにより、ここまでスポーツ産業の経済規模が拡大しています。一方、日本は浦和レッズですらわずか 60 億円程度です。スタジアム・アリーナを改革・活用し、あるいは、スポーツに投資することで、儲かりますよ、地域の活性化やゆたかさにつながりますよという青写真を見せていくこと、あるいは成功したこと例を示すことで、今後のこと業規模の拡大を推進できるのだと思います。

「スポーツの価値」について自分もここ1年深く考え、いろいろな人から話を聞く機会もありました。1880年頃 嘉納治五郎が高等師範の校長であった時代、西洋に追いつけ追い越せという勢いの一つで 外国から各種の指導者が来日しました。スポーツ指導者のリーランド(アメリカ人)もその一人だが、当時の日本は運動会で優勝して表彰台になることは、胸を張るよりは「ちょっと恥ずかしい」時代であったと聞きます。産業革命を経験したイギリスは、スポーツの価値、つまりスポーツをすることで潤うということに経験的にいち早く気づいたのだと思います。スポーツを知らない人にしてみれば、ゴールにボールを入れるだけのことをやって15兆円や60兆円ものお金が動くと聞いたら、詐欺と思ってもおかしくないですよ(笑)。スポーツは生きるために必ずしもやらなくてもよいことなのですが、何かの価値が有る。その価値とは、目的を持った時に組織として回すことをシミュレートすることができる機会になるのではないでしょうか。

組織体がつまずくことなくうまく機能するようにアドバイスすることが、私が所属する内部監査の仕ことですが、サッカーを子供に指導するプロセスと非常に似ています。つまり成功体験を積み重ねながら失敗するリスクを軽減させるためのプロセスを考えること、これはスポーツでも社会においても共通に必要なことです。スポーツの価値ってこういうことだよねということを整理しながら上手に社会に発信することが、「儲かる仕組み」にもつながるのではないでしょうか。今日の安藤さんの話を聞いてこのように思いました。

安藤 ありがとうございます。長生きしたけど医療費が増大して赤字が膨らむのでは自治体としてはありがたくないわけですが、健やかに長生きして、なおかつ社会に貢献できる人が増えれば、みんながハッピーとなるわけです。そのためにスポーツがどのように関わることができるか引き続き考えていきたいと思います。

#### 5. モンゴルのスナップ写真(本報告書では省略)

### 6. コメント及びまとめ

中塚 うちのサッカー部の卒業生で筑波大蹴球部にも一時属していた者が、その後ウランバートルのサッカーチームでプレー、今は茨城のチームでプレーしているようですが、機会があったら彼からもモンゴルの話を聞いてみようと思います。

今日は、安藤さんがモンゴルで考えてきたこと、そして GMSS の思想やプロジェクトについて語ってもらい、スポーツの価値という本質的なことも議論することができました。最後に参加者の方よりコメントをお願いします。

竹中 少年サッカーの指導をしていますが、総合型地域スポーツクラブは多種目多世代をつなぐことの難しさがあると感じました。クラブの運営では受益者負担と、自治体の補助のバランスが大切だということを、以前サロン 2002 の集まりで教わったことを覚えています。

奥崎 サッカーはJリーグができて日本でのひろがりをみせていると思いました。

長尾 スポーツマンシップってなんだろうと考えていこうと思います。

- 福士 ボール運動の基礎であるバルシューレは、世界戦略を展開しアジアでの活動も始まっています。今日の話の 東南アジアプロジェクトの部分で協力できることがあるかもしれません。
- 川戸 今日柔道の試合をやってきてちょっと首を痛めてきました(笑)。父は少年柔道教室を開催しています。今 まで深く議論したことがなかったのですが、年末実家に帰ったら、子供や保護者に「スポーツの価値」をどの ように伝えようとしているのかを聞いてみようと思います。
- 笹原 北京に駐在時代にウランバートルに出張したことがありますが、「当時のモンゴルは何が起こるかわからない面白そうな雰囲気」がありました。今日の写真を見るとだいぶ近代化していることに驚きました。
- 国島 東京オリンピックパラリンピックを控えていますが、今日話題になったスポーツの価値といったことを理解 しない人たちが日本のスポーツ界で発言力がありすぎることは好ましくないことだなということを考えていました。
- 安藤 ありがとうございます。本日お伝えした内容が、皆さんの頭の整理に多少でも役に立ったらと幸いです。私 自身これからも皆さんに教えていただくことがたくさんあると思いますので、今後ともよろしくお願いします。 今日はありがとうございました。